

AAS001-P02

会場:コンベンションホール

時間:5月25日 15:45-16:15

沖縄豪雨事例における地上型 GPS による水蒸気観測データ同化実験 Assimilation experiment of the GPS-driven water vapor observations on the local heavy rainfall event in Okinawa

川畑 拓矢^{1*}, 小司 禎教¹, 瀬古 弘¹, 斉藤 和雄¹
Takuya Kawabata^{1*}, Yoshinori Shoji¹, Hiromu Seko¹, Kazuo Saito¹

¹ 気象研究所

¹ Meteorological Research Institute

2009年8月19日14時頃、那覇の南で強い対流が発生し、その北側に約2km四方程度の小さな積乱雲が発生した。この小さな降水域によって、那覇市のガープ川が急激に増水し、川で工事を行っていた作業員5人が流され、4人が亡くなった。

この事例を予報するには、那覇の南海上の水蒸気に対する精度良い初期場が不可欠である。このため、地上型GPSによる水蒸気観測データの同化を行った。地上型水蒸気観測データとしては、GPS観測点直上に積算した可降水量、同様に積算した天頂遅延量、GPS衛星方向に積算した視線遅延量がある。これら3種のデータについて、同化を行い、降水予報に対するインパクトを調べた。その結果、視線遅延量を同化したケースがもっとも良い改善が見られた。

キーワード: データ同化, GPS, 視線遅延量

Keywords: Data Assimilation, GPS, slant delay